

報告事項オ

平成26年度第2回科学の甲子園ジュニア全国大会の結果について

平成26年度第2回科学の甲子園ジュニア全国大会の結果について、別紙のとおり報告します。

平成26年12月22日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

(別 紙)

## 平成26年第2回科学の甲子園ジュニア全国大会の結果について

### 1 概要

平成26年8月に開催された鳥取県大会において、県代表チームとなった鳥取大学附属中学校Bチーム、鳥取市立高草中学校が全国大会に参加し、優良賞を受賞。

### 2 大会日程

大会1日目 平成26年12月5日(金)

16:00~17:00 開会式

17:00~17:40 オリエンテーション

大会2日目 平成26年12月6日(土)

10:00~11:30 筆記競技

12:30~14:20 実技競技①

14:30~17:10 実技競技②

17:30~18:15 エキシビション①

大会3日目 平成26年12月7日(日)

10:00~11:00 エキシビション②

11:20~12:30 表彰式

### 3 成績一覧表 \*各都道府県の代表選考で選抜された47チームが出場

総合成績	
優勝	茨城県
第2位	福岡県
第3位	愛知県
第4位	東京都
第5位	岡山県
第6位	岩手県
第7位	広島県
第8位	奈良県
第9位	長野県
第10位	香川県
優良賞 (第11位~第20位)	鳥取県
企業特別賞	
SHIMADZU賞	広島県
帝人賞	大分県
ナリカ賞	東京都
日立賞	福岡県
ヤガミ賞	富山県

筆記競技	
第1位	愛知県
第2位	福岡県
第3位	茨城県
第4位	広島県
第5位	奈良県
実技競技①	
第1位	岐阜県
第2位	岡山県
第3位	茨城県
第4位	鹿児島県
第5位	宮崎県
実技競技②	
第1位	岩手県
第2位	長野県
第3位	山口県
第4位	茨城県
第5位	東京都

## 第2回科学の甲子園ジュニア全国大会 実施要項

### 1. 目的

科学の甲子園ジュニアは、理科、数学等における複数分野の競技に協働して取り組むことを通じて、全国の中学生が科学の楽しさ、面白さを知り、科学と実生活・実社会との関連に気付き、科学を学ぶことの意義を実感できる場を提供することによって、科学好きの裾野を広げるとともに、未知の分野に挑戦する探究心や創造性に優れた人材を育成することを目的とする。

### 2. 全国大会の名称

名称を「第2回科学の甲子園ジュニア全国大会」とする。

### 3. 全国大会の実施・協力体制

主催：独立行政法人科学技術振興機構(JST)

共催：全国中学校理科教育研究会

後援：文部科学省、東京都教育委員会、全日本中学校長会

公益社団法人日本理科教育振興協会

その他、都道府県教育委員会等の関係機関の協力を得て開催する。

### 4. 場所

BumB 東京スポーツ文化館(東京都江東区夢の島 2-1-3)

### 5. 開催日程

平成26年12月5日から7日までの3日間の日程で全国大会を開催する。

詳細は別紙のとおり。

### 6. 出場チーム

①47都道府県の代表選考で選抜された47チームを全国大会の出場チームとする。

②全国大会出場チームは、1都道府県1チームとする。

③出場チームは中学1、2学年の生徒(中等教育学校前期課程にあつては同年次の生徒)で構成する。

④出場チームの員数は6人とする。

⑤各出場チームについては、引率教員2名が同行する。

### 7. 競技の種類

①大会競技は筆記競技と実技競技からなる。

②理科・数学等の複数分野において、実生活・実社会との関連、融合領域に配慮した出題とし、生徒の修得済みの知識に加えて、競技に必要な新たに示された情報を統合することで課題を解決する内容とする。

③実技競技は、ものづくりの能力、コミュニケーション能力等を用いて課題を解決する力を競うものとする。

## 8. 競技の形式

- ①筆記競技、実技競技ともに、各出場チームが競技ごとに定められた人数からなる競技チームを構成し、課題を分担、相談するなど協働して、その成果を競い合う形式のものとする。競技数、競技者数、配点及び競技時間は以下の通り。

種目	競技者数	配点	競技時間
筆記競技	6名	300点 (50点×6題)	70分
実技競技(実験競技)	3名	300点	90分
実技競技(工作競技)	3名	300点	120分

- ②実技競技(工作競技)は、事前に内容を公開する。

## 9. 表彰等

- ①各競技の成績点数の合計によって優勝チームを決定する。
- ②優勝チームに文部科学大臣賞を授与するほか、成績上位チームについても表彰する。
- ③主催者は協賛企業を募り、その他の表彰を授与する。
- ④成績上位の出場チームについては、その成績を公表する。

## 10. 費用負担

- ①全国大会開催にかかる費用、及び、出場チームの選手及び引率教員2名の全国大会会場までの往復交通費と宿泊費等は、原則としてJSTが負担する。
- ②都道府県代表選考、及び、選考された代表チームの研修にかかる費用のうち、認められるものについてはJSTがその費用を支援する。但し、都道府県にも応分の負担を求めるものとする。

## 11. 運営

全国大会の運営のため、JST 理事長を委員長とする「科学の甲子園ジュニア全国大会実行委員会」を設置する。

## 12. その他

全国大会における個人情報および肖像権の取扱いについては別途通知する。

以上

## 第2回科学の甲子園ジュニア全国大会 都道府県代表チーム一覧

1	北海道	帯広市立帯広第四中学校、函館ラ・サール中学校
2	青森県	弘前大学教育学部附属中学校、藤崎町立明德中学校
3	岩手県	岩手大学教育学部附属中学校
4	宮城県	宮城県仙台二華中学校
5	秋田県	秋田市立御野場中学校、秋田大学教育文化学部附属中学校
6	山形県	山形市立第三中学校
7	福島県	福島大学附属中学校、いわき秀英中学校
8	茨城県	茨城県立並木中等教育学校
9	栃木県	作新学院中等部
10	群馬県	群馬大学教育学部附属中学校、前橋市立富士見中学校
11	埼玉県	三郷市立早稲田中学校、越谷市立千間台中学校
12	千葉県	渋谷教育学園幕張中学校
13	東京都	東京都立白鷗高等学校附属中学校、駒場東邦中学校
14	神奈川県	神奈川県立平塚中等教育学校
15	新潟県	新潟市立鳥屋野中学校、新潟県立直江津中等教育学校
16	富山県	富山市立芝園中学校、富山市立北部中学校、高岡市立戸出中学校、富山大学人間発達科学部附属中学校
17	石川県	白山市立白嶺中学校、石川県立金沢錦丘中学校
18	福井県	福井市明道中学校、坂井市立丸岡南中学校、大野市尚徳中学校、小浜市立小浜第二中学校、越前市武生第三中学校
19	山梨県	北杜市立甲陵中学校、山梨大学教育人間科学部附属中学校
20	長野県	長野県諏訪清陵高等学校附属中学校
21	岐阜県	岐阜市立長良中学校
22	静岡県	静岡大学教育学部附属浜松中学校、静岡市立清水第七中学校、掛川市立西中学校、沼津市立大岡中学校
23	愛知県	海陽中等教育学校
24	三重県	三重大学教育学部附属中学校、暁中学校
25	滋賀県	滋賀大学教育学部附属中学校、滋賀県立守山中学校
26	京都府	京都府立洛北高等学校附属中学校、立命館中学校
27	大阪府	大阪星光学院中学校
28	兵庫県	多可町立中町中学校、南あわじ市立三原中学校
29	奈良県	西大和学園中学校
30	和歌山県	智辯学園和歌山中学校
31	鳥取県	鳥取大学附属中学校、鳥取市立高草中学校
32	島根県	出雲市立浜山中学校、開星中学校
33	岡山県	岡山県立倉敷天城中学校、岡山中学校
34	広島県	広島大学附属中学校
35	山口県	山口市立小郡中学校、山口大学教育学部附属山口中学校
36	徳島県	鳴門教育大学附属中学校
37	香川県	香川大学教育学部附属高松中学校、香川大学教育学部附属坂出中学校、香川県大手前中学校
38	愛媛県	愛媛県立松山西中等教育学校、東温市立川内中学校
39	高知県	宿毛市立片島中学校
40	福岡県	久留米大学附設中学校、福岡教育大学附属福岡中学校
41	佐賀県	武雄市立武雄北中学校、佐賀県立香楠中学校
42	長崎県	長崎県立佐世保北中学校
43	熊本県	熊本県立宇土中学校
44	大分県	大分県立大分豊府中学校
45	宮崎県	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校
46	鹿児島県	ラ・サール中学校
47	沖縄県	琉球大学教育学部附属中学校